

## 平成 30 年度全国剣道指導者研修会（近畿ブロック・和歌山県）



仮屋達彦講師による基本動作の指導

平成 30 年度全国剣道指導者研修会・近畿ブロック（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、主管＝和歌山県学校剣道連盟）は、平成 31 年 1 月 19～20 日の 2 日間、和歌山ビッグウエーブで、中学校保健体育科教員 19 名を含む 77 名が参加して行われた。本事業は、平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、剣道の授業が効果的に展開されるよう、全国 9 ブロックのうち、毎年 5 ブロックで開催されており、今年度最後の開催となった。

### ■ 1 日目（1 月 19 日）

開講式では、はじめに今寺直人日本武道館振興課主任が「本研修会は、平成 24 年度から実施されている中学校武道必修化の充実を目的として実施しております。今回ご指導いただく講師の先生方は、毎年 5 ブロックで実施している本研修会の成果と反省をふまえ、研修内容を磨き上げております。充実した研修となるよう、自主性を持って研修に臨んでいただきたい」と挨拶した。

続いて、網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が挨拶に立ち、「剣道授業を行うには、施設・用具・指導者の問題があります。指導者の問題では、剣道専門の教員は少なく、他種目、他教科の先生の力を借りて授業を行っているのが現状です。本研修会は剣道授業をどのように行えば良いか、いろい

ろな場面を想定して展開していきます。参加者の先生方の知恵やアイデアも加味していただいて指導内容を深めていただき、現場にお持ち帰りいただきたい」と述べた。

主管県から、歓迎の言葉として、鈴木康生和歌山県剣道連盟副会長が「お忙しい中、各県からご参加いただきありがとうございます。いかに剣道授業を楽しく、そして継続して行っていくことができるかが課題ではないかと思えます。2 日間、意義のある研修会にさせていただければと思います」と述べた。

開講式終了後、山田博子講師による「中学校保健体育科における武道（剣道）の学習について」の講義が行われた。学習指導要領の改訂について、「特徴は、小学校から中学校、高等学校と、系統性を持たせていること」と説明した。また参加者の勤務校で採用している武道種目を確認した際、複数種目採用校の挙手を求めたところ、参加者から手は挙がらなかった。

続いて、吉田泰将講師による「安全指導について」の講義が行われ、剣道具（竹刀・面・小手）の構造に触れ、事故が起こる原因、危険性を上げた。

次に、花澤博夫講師による「体罰・暴力によらない指導」の講義が行われた。直近で起こった学校や剣道関連の事件を例に上げ、和歌山で報告されている体罰などの発生件数にも触れた。

その後、「剣道授業実践発表」として、みなべ町立南部中学校の中村裕亮教諭が発表を行った。本

研修会で取り入れている「新聞切り」「どんぴしゃり」を勤務校で実践している動画を紹介した。中村教諭は、新聞切りの指導について「肩・肘・手首を連動させるように指導している。力を抜くようにしたところ、うまく切れるようになった。うまくいかない生徒にはあらかじめ切れ目を入れてあげ、簡単に切れてしまう生徒には、難易度を上げるために、竹刀の代わりに感熱紙の芯を使用し、指導の個別化を図っている」と説明した。

午後は、はじめに軽米満世講師による「剣道の歴史と特性」の講義が行われた。剣道の特性について、「相手と真剣に向き合い、相手を尊重し、相手と気を合わせる。そして、自己を律する克己心を理解させること」と説明した。

その後、「剣道授業における体ほぐしの運動」として、山田講師より「じゃんけんゲーム」「手拭いゲーム」「パートナーを探せ」、有田祐二講師より「新聞切り」「どんぴしゃり」「ボール打ち」が行われた。有田講師は、最後に「剣道の動きにつながるように、楽しく実践させてほしい」と結んだ。

休憩後、軽米講師による「剣道に必要な動きづくり」が行われた。まず発声の練習をし、竹刀を持たずに面・胴・小手の動きを確認した後、すり足と残心もあわせて練習した。2人組で行う研修の際には、「師匠と弟子」という設定にし、師匠が弟子に対し、「前、後、面を打て！」という号令を出した。軽米講師は、「積極的に身体を動かすようにし、剣道は楽しいと思ってもらえるように指導してほしい」と結んだ。

休憩後、「剣道具のない授業例」として、網代講師が礼法を指導した後、宮原昇治講師と下諸純孝講師による「木刀による剣道基本技稽古法(以下、木刀基本)」が行われた。立ち方や座り方、立礼、座礼、木刀の置き方などが解説された後、木刀基本の1～5本目を示範しながら解説した。掛り手、受け手ともに、「面を打て！残心。一足一刀」など、発声をしながら練習した。その後、「木刀基本をどう教材化するか、どんな練習方法があるか」を班別に話し合った。

最後に仮屋達彦講師の指導のもと、「剣道授業の現状と課題」について、班別に研究協議を行った。

発表の場面では、「剣道は専門性が高く、専門としない教員からすると、やはり動作が難しい」「総合学習の時間など、1～2時間でも剣道の楽しさに触れてみる時間があっても良いのでは」といった意見が上がった。

## ■ 2日目 (1月20日)

「剣道具のない授業例(竹刀による授業例)」として、仮屋講師が上下素振り、斜め振り、跳躍素振りなどの基本動作、有田講師が打ち方、打たせ方を2人1組で指導した。段階的な指導として、基本打突(面、小手、胴)を「その場→一足一刀の間合→一歩攻めて(送り足)」の順に指導した。

次に、花澤講師による「音楽を活用した授業例」が行われ、音楽に合わせて先程行った基本打突(面、小手、胴)を行った。

続いて、有田講師による「剣道具の着装方法」が行われ、参加者は全員垂れ、面、小手を着装した。着装方法の中で、簡易な手拭いのかぶり方も紹介された。参加者が剣道具を着装したまま、下諸講師が「基本となる技の段階的指導方法」を行った。最後に専門としない教員に対し、「長時間、面をつけていたが、どうだったか？」と問いかけ、「面の締め付けにより、頭部の痛みを訴える生徒もいる。声掛けをして気を配るように」と結んだ。

続いて山田講師による「ごく簡単な試合(判定試合)」が行われた。初めに判定の基準となる気剣体一致の、「気・剣・体」それぞれの判定ポイントを説明し、参加者は5人組を作り、試合者2名以外の3名は、気・剣・体それぞれを判定する審判役を担った。

午後は、吉田講師による応じ技(面抜き胴)、軽米講師による応じ技(面抜き胴)の「ごく簡単な試合Ⅱ」、花澤講師による「約束練習」がそれぞれ指導された。

最後に山田講師が「指導と評価」について講義を行い、指導と評価の一体化の重要性を解説した。

閉講式では軽米講師が講評を行い、宮井和哉有田市立文成中学校教諭が講師への謝辞を述べ、上里昌輝和歌山県剣道連盟副会長が主管県挨拶、網代講師が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。